

鹿児島医セン

連携室だより

2008.2 No.23

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

心エコーラボ発足

2008年1月から鹿児島医療センターに心エコーラボが発足することになりました。ラボ設立に際し、院長をはじめ、数多くの関係者の方々、またわずか2台のエコー装置で年間1万例に及ぶ検査をこなしてきた医師やエコー技師の方々のご努力に、この場を借りて厚く御礼申上げる次第です。

当院におけるこの5年間の心エコーのオーダー数は年間1万例となり、心臓だけでなく大動脈、頸動脈、腎動脈、上・下肢動脈、それに上・下肢静脈などの血管エコーを加えますと年間1万数千例になります。このような心・血管エコーに対する広範囲に亘る臨床的需要を考えると、エコーラボの発足は時代の流れなのかもしれません。エコーラボには最新鋭の器械5台を常設し、5人のエコー技師と医師とが、一般外来、救急外来、病棟への往診などに対処します。当面エコーで得られた情報が、正確でかつそれが主治医に正しくフィードバックされるよう、報告書の内容の充実を計りたいと思います。

エコーラボの設立は臨床診断の流れをスムーズにするという実務的な役割の他に、今後増加するであろう研修医やエコー技師を目指す人たちの教育の場としての役割もあります。心エコー技師の数は全国で約三千名に異なり、エコーの学会やセミナーに参加する人たちの数も増加しています。鹿児島でもすでに10年以上に亘り勉強会が続いており、技師の



心エコーラボスタッフ



循環器エコー検査室

免許をもった人の数は増え続けています。心エコーがますます当院の臨床に役立つよう、これからも努力を続けてまいりたいと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

（心エコーラボ一同）循環器科部長 皆越 眞一

当院で行われている治療のご紹介

放射線科

放射線科は、当院の前身である国立鹿児島病院の時代に始まり、わが病院でもっとも昔からある診療科のひとつです。

放射線診断、核医学診断、放射線治療、そして肺癌、食道癌などを中心としたがん患者の入院、治療などをおこなってまいりました。

スタッフも3名体制の時期もあったのですが、現在、昨今の放射線科医不足を反映し、わたくし 米倉隆治 一人だけの体制となっています。そのため放射線科病棟は残念ながら閉鎖しております。ただし非常勤では 牧野正興前副院長に禁煙外来を担当していただき、山角麻美先生、鹿児島大学放射線科の先生方にCT診断の支援をいただいております、

画像診断機器としてCTは2年前に県内でもトップクラスのシーメンス社製64列マルチスライスCTを導入いたしました。病院の性質から、心臓血管系のCT件数は県内有数の症例数を誇っています。MRIについては、昨年1月にシーメンス社製のMAGNETOM Avanto 1.5Tに機種更新いたしました。最近MRIは3Tが話題ですが、臨床での使用に関してはまだまだ解決すべき問題が多いため、1.5Tの最上位機種を導入することになりました。

これらの検査の依頼に関しては先生方から御紹介、御連絡いただければ、対応いたしております。検査日時に関しても迅速に、ほぼ御希望に沿うように計画がたてられると思います。

放射線治療に関してはリニアック装置1台を所有し、4,10MVの超高压X線、4~15MeVの電子線による外照射治療が可能です。またマイクロセレクトロンによる腔内照射、ラルス治療を行っています。特に子宮癌の放射線治療に関しては当院産婦人科、鹿児島大学産婦人科の御協力をいただき、全国でも屈指の症例数を誇っており、週刊誌サンデー毎日に取り上げられました。

また県内唯一の、手術室も兼ねた照射室となっており、切除不能な膵臓癌などの術中照射を行っています。こちらも県内でトップの数の治療を行ってまいりました。



ただ上記しましたとおり、放射線科病棟を閉鎖しておりますので、他の病院から御紹介いただく放射線治療患者さんは外来通院、あるいは当院他科に入院していただき、治療をおこなっております。

その他CTガイド下肺生検を積極的に行っております。肺癌が疑われる症例で、喀痰細胞診検査が陽性に出ない場合、気管支鏡検査を行ったものの確定診断がついていない場合など、気管支鏡検査よりも、はるかに患者さんにとって負担が少なく、より正確に診断をつけることができます。

外来診療については胸部集団検診で要精密例の精査、放射線治療依頼、肺癌の診断依頼などをうけております。外来日は、月、火、そして木曜日となっておりますが、その他の曜日であっても、やはり御連絡いただければ、対応いたしております。

今後ともよろしくお願いいたします。

放射線科医長 米倉 隆治

診療メモ

「陥入爪と巻き爪」

日常診療でよくみられる疾患ですが、病名については混同がみられ、治療法についても意見の分かれる疾患です。「陥入爪」は爪の角がトゲのように軟部組織に刺さって炎症を起こした状態です。爪の高度な彎曲や変形はなく、腫脹した皮膚や肉芽が爪の上を覆っているため、爪が皮膚にくいこんでいるようにみえます。原因には足に合わない靴、外傷、などがありますが、最も多いのは“深爪”です。「巻き爪(彎曲爪)」は厚くなった爪全体がアーチ状に彎曲し、横方向に「の」の字型に巻いている状態で、中年以降の女性に多くみられます。原因には末節骨の先端の突出や爪白癬など、があります。「陥入爪」の治療は、まず、爪を伸ばすことで、予防にもなります。しかし、爪は月に2mm程度しか伸びませんので、根気が必要です。その間、爪の角が軟部組織に当たらないようにコットンパッキングを行ったり、爪と皮膚の間に隙間を開けるテーピング法や爪縁にビニールチューブを被せるガーター法などを行います。爪を切る時は指先より1mmぐらい長くまっすぐに切ります(スクエアカット)。最近は爪矯正法も行われます。爪の両端に穴を開け、形状記憶合金ワイヤーを通し、その特性を利用して、爪を平にします。欠点としては、治療期間が平均で半年と長く、自費診療であることです。外科的治療は爪母の端を切除または破壊して、爪の幅を狭くする方法です。代表的な方法として、爪縁と皮膚を縫合する鬼塚法と爪母をフェノールで灼くフェノール法があります。フェノール法は肉芽が激しく盛り上がりつつも可能で、当科ではもっぱらこの方法を行っています。開放創であり、術後の疼痛が軽度で、入浴もすぐにでき、再発率も低く、ほぼ満足できる成績です。「巻き爪」の治療には、彎曲した爪を外し、爪床を平らにする方法もあります。

(外科部長 宮崎俊明)

緩和ケア研修会のご案内

今回、当院において緩和ケア研修会を下記のとおり開催することとなりました。
つきましては、関係者の方々お誘い合わせの上、多数ご出席くださるようお願いいたします。

日時 平成20年2月28日(木) 18:00～20:00

場所 鹿児島医療センター 2F 大会議室

内容

演 題 「緩和ケアにおける心のケアとチャプレンの役割」

講 師 医療法人 東札幌病院 チャプレン 小西 達也 先生

定員 80名 定員になり次第、締め切らせていただきます。

独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター
緩和ケアチームチーフ 耳鼻いんこう科医長 松崎 勉

問い合わせ先：地域医療連携室(内線7330)

新new任 紹face介



第二循環器科レジデント

またき ひろこ
俣木 浩子

H17年に鹿児島大学を卒業し、鹿児島大学のプログラムで初期研修をしました。H19年4月からは呼吸器内科(旧第三内科)で後期研修を開始し、呼吸・循環の密接な関係を実感しました。循環器診療を勉強したいと希望し、12月から第二循環器で勤務させていただいています。未熟な点多くご迷惑をおかけすること多いかと思いますが、4ヶ月間よろしくお願ひいたします。



外来師長

なら ゆうこ
奈良 優子

11月1日付で師長昇任し、外来配置となりました奈良優子です。皆様よろしくお願ひ致します。国立病院機構別府医療センターでは、手術室、外科系の病棟などを経験しました。しかし、外来勤務は初めてで不慣れなため、右往左往しているところです。この不慣れで不安な気持ちを患者様の思いや目線に繋げて行こうと考えています。外来にお越しの際はお気軽に声をおかけください。



第一循環器科レジデント

くすもと あつし
楠本 敦旨

鹿児島大学病院勤務を経た後、平成20年1月より第一循環器科に勤務することになりました。多忙ながらも充実したスタッフの方々に恵まれ、楽しく仕事させていただいております。何かとご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導のほど宜しくお願ひいたします。



相談支援係

よしどめ ゆきの
吉留 由希乃

11月より、地域医療連携室の一員として働かせて頂くことになりました。まだまだ不慣れでご迷惑をお掛けする事も多々あると思いますが、いろんな経験を通して成長していきたいと思っています。患者様にとって最善の支援、援助が出来るよう努力してまいりますので、宜しくお願ひ致します。



麻酔科レジデント

やまだ かな
山田 佳奈

平成17年鹿児島大学を卒業し、鹿児島大学の臨床研修プログラムで2年間研修しました。研修医2年目の後半より麻酔科をローテートし、平成19年4月に麻酔科に入局後、大学病院勤務を経て1月より麻酔科で働かせていただくことになりました。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、よろしくお願ひいたします。

登録医医療機関紹介のコーナーを始めました

掲載希望の医療機関はご連絡下さい。

お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
(代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

(地域医療連携室) 濱田、大渡、平田、中島、田添、吉留、善福
直通電話 ▶▶ 099-223-4425
フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
※休日・時間外は当直者で対応します。

